

議 事 録

会 議 の 名 称	第 1 1 回小川北学区義務教育学校開校準備委員会																																																								
開 催 日 時	令和元年 1 1 月 1 日 (金) 1 9 時 0 0 分～1 9 時 4 5 分																																																								
開 催 場 所	小川北中学校 1 階 美術室																																																								
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>沼田 誠司</td> <td>小川 勲</td> <td>田村 孝広</td> <td>吉田 洋子</td> </tr> <tr> <td>芝田 健二</td> <td>織田 剛</td> <td>戸塚 良和</td> <td>市根井克年</td> </tr> <tr> <td>成井 志野</td> <td>沼田 和幸</td> <td>藤田 康広</td> <td>櫻井 謙治</td> </tr> <tr> <td>山口 恵子</td> <td>久保田達雄</td> <td>長谷川美智子</td> <td>川澄 芳英</td> </tr> <tr> <td>萩野谷邦夫</td> <td>高野 郁</td> <td>関澤 恒美</td> <td>皆藤 正造</td> </tr> <tr> <td>小森 真史</td> <td>高久 誠二</td> <td>萩原 栄</td> <td>細山 美好</td> </tr> <tr> <td>田上 光一</td> <td>中川 稔</td> <td>成井 嘉男</td> <td>藤井 敏生</td> </tr> <tr> <td>長島 幸男</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>澤 英治</td> <td>片岡 友加</td> <td>鳥羽田 力</td> <td>幡谷 好文</td> </tr> <tr> <td>石井 旭</td> <td>松本 和恵</td> <td>櫻井美智子</td> <td>皆川 卓夫</td> </tr> <tr> <td>高野 晴夫</td> <td>大曾根慎悟</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>加瀬 博正</td> <td>中村 均</td> <td>白井 律子</td> <td>菅谷 清美</td> </tr> <tr> <td>片岡 理一</td> <td>野尻 秀子</td> <td>植田 薫</td> <td>入野裕美子</td> </tr> <tr> <td>田口 智大</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	沼田 誠司	小川 勲	田村 孝広	吉田 洋子	芝田 健二	織田 剛	戸塚 良和	市根井克年	成井 志野	沼田 和幸	藤田 康広	櫻井 謙治	山口 恵子	久保田達雄	長谷川美智子	川澄 芳英	萩野谷邦夫	高野 郁	関澤 恒美	皆藤 正造	小森 真史	高久 誠二	萩原 栄	細山 美好	田上 光一	中川 稔	成井 嘉男	藤井 敏生	長島 幸男				澤 英治	片岡 友加	鳥羽田 力	幡谷 好文	石井 旭	松本 和恵	櫻井美智子	皆川 卓夫	高野 晴夫	大曾根慎悟			加瀬 博正	中村 均	白井 律子	菅谷 清美	片岡 理一	野尻 秀子	植田 薫	入野裕美子	田口 智大			
沼田 誠司	小川 勲	田村 孝広	吉田 洋子																																																						
芝田 健二	織田 剛	戸塚 良和	市根井克年																																																						
成井 志野	沼田 和幸	藤田 康広	櫻井 謙治																																																						
山口 恵子	久保田達雄	長谷川美智子	川澄 芳英																																																						
萩野谷邦夫	高野 郁	関澤 恒美	皆藤 正造																																																						
小森 真史	高久 誠二	萩原 栄	細山 美好																																																						
田上 光一	中川 稔	成井 嘉男	藤井 敏生																																																						
長島 幸男																																																									
澤 英治	片岡 友加	鳥羽田 力	幡谷 好文																																																						
石井 旭	松本 和恵	櫻井美智子	皆川 卓夫																																																						
高野 晴夫	大曾根慎悟																																																								
加瀬 博正	中村 均	白井 律子	菅谷 清美																																																						
片岡 理一	野尻 秀子	植田 薫	入野裕美子																																																						
田口 智大																																																									
協 議 案 件	<p>(1) 総務・通学部会からの報告</p> <p>(2) 校名の募集について</p>																																																								
会 議 資 料	別 紙 (会議次第, 他)																																																								
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																																								
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 0 人)																																																								

【委員長あいさつ】

お忙しい時間帯にお集まりいただき、ありがとうございます。アピオスが改修工事中のため、小川北中学校を会場として使用させていただくことになりましたが、実際にこの場所が義務教育学校になるということで、ここでの開催は意義のあることだと思います。スムーズに進行していきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【協 議】

(1) 総務・通学部会からの報告

委員長 制服・体操服について、部会長より協議結果の報告をお願いしたい。

資料1・部会資料1～4に基づき、部会長より報告

部会長 制服は、新しいデザインとし、種類は男女ともブレザーとした。着用範囲は7～9年生とし、ネクタイやリボン等の付属品は着用しないこととする。体操服は、全学年統一の新しいデザインとした。着用の開始時期については、移行期間を設け、統合前の各校において、令和3年度から着用を開始する。統合後、旧デザインの着用も可能とし、着用期限はなしとする。制服の着用範囲については、部会内で意見が分かれたため、保護者を対象にアンケート調査を実施し、その結果をもとに協議した。新しいデザインの選定にあたって、事業者によるコンペを実施することとし、事業者提案の募集要項について、部会資料4のとおりとした。

部会資料3・4に基づき、事務局より補足説明

事務局 まず、保護者を対象としたアンケート調査について、補足させていただく。調査期間は、9月30日から10月4日までである。対象は、野田小学校・上吉影小学校・下吉影小学校に通う児童がいるご家庭と、市内の幼稚園・保育園に通う小川北中学校区在住の未就学児がいるご家庭とし、1世帯につき1回答とした。「対象機関別の回答率」の表に記載されている小学校・幼稚園・保育園に通う児童がいる世帯から、計325の回答をいただき、全体の回答率は69.7%という結果だった。問8が、制服を何年生から着用するのがよいかという質問である。「7年生から着用」という回答は75.9%、「1年生から着用」が17.6%、「5年生から着用」が4.9%だった。また、問7は制服・体操服のデザインについての質問である。ブレザー等の新しいデザインがよいという回答が63.7%、既存の小川北中学校のものがよいという回答が33.2%という結果だった。

次に、事業者によるコンペの詳細について、ご説明させていただく。制服は、上着(男女)、スラックス(夏用・冬用)、スカート(夏用・冬用)の計6点を募集する。価格は、男女各3点の合計額が税込5万円以下とする。上着は160A、スカートはW66、スラックスはW70のサイズの価格である。体操服は、長袖体操服、長ズボン、半袖体操服、半ズボンの計4点を募集する。半袖体操服については、透け防止機能を有するものとしている。価格は、4点の合計額が、税込15,000円以下とする。150cmサイズの価格である。長袖体操服・半袖体操服は校名・校章をプリントし、左胸に

ネームを刺繍し、長ズボン・半ズボンは左腰にネームを刺繍する。

選定は、第一次選定と最終選定により実施する。第一次選定では、事業者によるプレゼンを行う。事業者が提案できる制服・体操服の数は、1つの事業者につきそれぞれ2セットまでとしている。プレゼン後に審査を行い、提案の中から、制服・体操服各3セットを選定する。審査員は、準備委員会の委員のうち、総務・通学部会員、PTA部会員、幼稚園PTAの委員とした。事業者から提出された資料や見本等をもとに、審査項目別の配点に従って得点を付け、審査する。審査項目は、価格、機能性・快適性、デザイン、耐久性・メンテナンス性の4項目である。最終選定では、第一次選定により選定した制服・体操服各3セットのサンプルを各学校に展示して、保護者や教職員による投票を行い、最も得票数の多かった事業者を第一候補、次点を第二候補として選定する。

今回、事業者募集を行うことが決定すれば、11月5日からホームページにて周知する予定としている。12月27日までに提案書等必要書類の受付を終え、実際に第一次選定を行うのは、1月15日・22日になる。事業者の数によっては選定に時間がかかることが想定されるため、二回に分け、時刻は18時からの開催としている。最終選定は4月、結果の公表は6月に行う予定である。

委員長 制服・体操服についての報告に対し、質問等はあるか。

委員 着用の開始時期を令和3年度からとしているのは、5年度の開校前から着用して徐々に移行し、年数が経過して新しいものに揃った状態で開校を迎えるという狙いだと思う。だが、制服が変わっても1、2年間は不揃いという学校もあるので、無理に揃えるというのであれば、その検討の経過を聞かせていただきたい。

事務局 令和5年度の開校時に7～9年生の制服が揃うようにするということがあるが、体操服の移行を考えると、前もって買うことができる状態にしておいた方がよいということで、3年度からとしている。

委員 保護者から、なぜこのタイミングで新しいものに変えるのかという意見が出ることを考慮すると、しっかりとした方針がないといけない。できるだけ新しいものに揃えるということを、きちんと説明してあげるとよいと思う。

委員 体操服の価格は、刺繍の費用もかかるので、15,000円では高いように思う。もう少し安くできないものか。

部会長 税込15,000円以下という価格は、プリント・刺繍を含めたものである。部会では、事業者からの提案が良いものであれば、ある程度値段が上がってもよいという意見があり、この価格設定とした。

委員 制服は計6点を募集としているが、女子のスラックスは考慮しないのか。

事務局 女子のスラックスについては、部会資料4・項目10の(11)に、「LGBT等性的少数者への対応(女子用スラックスの製造等)ができるようにすること」と、あらかじめ明記している。

委員 LGBTでなくても、スラックスを履きたいという生徒がいた場合、選択できるのか。

部会長 その点については未検討のため、今後、部会で検討したいと思う。

委員長 その他、意見等はあるか。

— 意見等なし —

委員長 では、若干検討すべき事項はあるが、大筋は報告のとおり進めることとする。続いて、通学体制について、部会長より協議結果の報告をお願いしたい。

資料1・部会資料2～3に基づき、部会長より報告

部会長 通学に関する現況確認のため、保護者を対象にアンケート調査を実施した。また、遠距離通学について協議を行った。児童については、市内で統合を先行する小川南小学校・玉里学園義務教育学校における決定を踏まえ、基準となる距離を3kmとした。通学距離が3km以上となる場合を遠距離通学として、通学支援の対象とする。生徒については、学校の位置や通学距離に変更がないことから、これまでどおりの通学とする。

遠距離通学支援の内容について、遠距離通学児童の登下校の通学手段を確保するため、スクールバスを運行し、教育の公平性や子育て支援の観点から、運行に要する経費は全額市費をもって充てる。路線バスを利用して通学する児童の場合は、通学に要する費用の全額を助成する。

部会資料3に基づき、事務局より補足説明

事務局 アンケート調査の結果について、補足させていただく。問3は、統合後の、自宅から学校までの通学距離についての質問である。野田小学校区は1km～2km未満が最も多く、3km・4kmがかなり少ないのに対し、上吉影小学校区・下吉影小学校区では3km・4km以上が多いという結果だった。問4は、登下校の方法についての質問である。下校時に車の割合が高くなっているのは、学童を利用する方が多いためだと思われる。問5は、現在の通学に関する時間と距離についての質問である。通学時間は、20分未満・20分～30分未満が多く、通学距離は、1km未満・1km～2km未満が多かった。問6は、通学に関する課題や不安に思うことを自由に記述してもらう質問である。街灯が少ない・道が狭いなどの安全対策に関する意見や、バスが利用できるかなど通学方法に関する意見が多かった。

委員長 通学についての報告に対し、意見や質問等はあるか。

— 意見等なし —

委員長 では、報告のとおり進めることとする。

【協議】

(2) 校名の募集について

資料2～5に基づき、事務局より説明

事務局 校名について、前回の準備委員会では、選定方法を協議していただき、応募用紙に校名を列挙したうえで「その他」として自由記述欄を設け、地域の方から校名を募るという方法に決定した。今回は、校名の募集内容について協議をお願いしたい。

資料2が募集要項であり、募集期間は11月22日から1月10日までとしている。募集対象は、小川北中学校区の小・中学校の児童生徒及び保護者、小川北中学校区に在住の方、野田小学校・上吉影小学校・下吉影小学校・小川北中学校を卒業した方とし、いずれかに該当することが応募資格となる。また、応募は1人につき1回とする。

募集方法は、各世帯に応募用紙(資料3)を兼ねた準備委員会だよりを配布、小川北中学校区の各学校を通じて児童生徒に応募用紙(資料4)を配布、応募用紙と応募箱を小川総合支所に備え置くという3つの方法である。応募用紙に、校名、校名の理由、応募者の住所・氏名・応募資格を記入し、応募箱に投函か郵送またはFAXで応募する。校名の選定にあたっては、投票数が一番多かったものに決定するのではなく、投票数や自由記述欄で応募のあったものを参考にして、準備委員会内で選定する。

資料5は、投票の選択肢として想定される校名候補の一覧である。前回、各学校のグループごとに協議し挙げていただいた案を、①から④に記載している。一般的に、校名には「小学校」「中学校」といった校種を付している。平成28年4月に施行となった改正後の学校教育法では、9年間の義務教育を一貫して行う「義務教育学校」が新たな校種として定められており、令和5年度開校予定の新しい学校も、義務教育学校としての開校を目指している。また、令和3年度の開校を目指し先行して協議を行っている玉里地区の学校も、校種が義務教育学校であることから、校名には「義務教育学校」を付している。このため、校種が明確に分かることや、前回のグループ協議で「義務教育学校」を付した案が多く挙がったことを踏まえ、校名には「義務教育学校」を付したいと考えている。

委員長 まず、校名の後ろ部分に、校種として「義務教育学校」を付すということで決定してよろしいか。

— 異議なし —

委員長 では、決定とする。それを踏まえたうえで、事務局の説明について、意見

や質問等はあるか。

委員 前回の協議の中では、資料5にあるとおり、4つの校名が候補として出たが、追加の校名として、「空（空港）」に「臨」む学園という意味で、「臨空学園義務教育学校」を提案したい。

校名①～④は、地域性や馴染みのある名前だと思う。自分も小川北中学校の卒業生のため、馴染みも親近感もあるが、新しい学校として児童を迎える中では、新しい視点が必要だと考えている。具体的には、少子化が進み、地域の力が廃れていく中、空港アクセス道路が整備されれば、ますます小川北学区の内外の環境は変わっていく。それを踏まえて、新しい義務教育学校で学ぶ児童生徒には、多様化・グローバル化への視点を養っていただきたい。そのような想いを込めて「臨空」という名前を提案したい。茨城空港は、地域にとって、物理的にも精神的にもメルクマール（指標）的な存在であり、児童生徒や地域の方にも馴染んでもらえると思う。

委員 応募用紙には「学校の名前を考えてください」とあるが、校名を4つ挙げてしまうと、それらの中から選ばなくてはならないと思われてしまうのではないか。既存の考え方ではなく、0から出発するということも踏まえて考えると、まるっきり地域性のある名前でない方がよいという気がする。

委員 協議内容が、前回の決定から逆行しているのではないか。①～④の案以外にも色々な校名が出ることを考慮して⑤の「その他」を加えるということでもとまっと記憶している。それを覆してしまうことになるので、賛否の決を採るしかないかなと思う。

委員 協議の結果によっては、追加するのも可であると思う。

事務局 前回の準備委員会では、⑤の「その他」を追加し自由に記述してもらうことは決定したが、校名候補は、グループ協議で挙げた①～④の案で決定はされていない。

委員長 事務局では、「臨空学園義務教育学校」を候補の一つとして追加し募集することに問題ないと捉えているということである。

挙げた意見を踏まえ、追加の選択肢「臨空学園義務教育学校」を応募用紙に記載してよいかどうか、決を採り、決定したいと思う。賛成か反対か、挙手をお願いしたい。

— 賛 成 多 数 —

委員長 では、5つの校名候補と「その他」により募集を行うということで決定させていただく。それ以外の内容について、意見等はあるか。

— 意 見 等 な し —

委員長 では，事務局案のとおり進めることとする。

【その他】

・部会等の今後の日程

総務・通学部会，PTA部会及び準備委員会の日程について，事務局より説明

事務局 総務・通学部会については，第4回を12月に開催し，1月には事業者コンペの第一次選定を実施する予定である。第一次選定には，総務・通学部会員だけでなく，PTA部会員と幼稚園PTAの委員にも参加していただく。

第一次選定の結果については，来年2月の準備委員会にて，報告する。また，次回の準備委員会では，校名募集の集計結果をもとに，校名を決定することになる。

PTA部会についても，来年2月の開催を予定している。

学校運営部会の日程について，部会長より説明

部会長 第1回の開催を，11月11日に予定している。日課表，総合的な学習の時間の内容，年間行事等について協議する。また，統合に向けてできるだけ子どもたちの交流の場を作っていくために，どのようなことが可能かを話し合っていく。新入児童の購入物品については，統一できるものを洗い出していきたいと考えている。

19：45 閉会